



# 村山光博

## 長岡大学第4代学長就任 (平成28年4月)

学校法人中越学園理事会において村山光博教授が学長に選任されました。任期は平成 28 年 4 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日の 4 年間です。

長岡大学長 **村山 光博**  
Mitsuhiro Murayama

### profile

生 年 昭和42年生(48歳・新潟市出身)

略 歴

平成4年3月 長岡技術科学大学大学院  
工学研究科機械システム工学専攻修士課程 修了

平成4年4月 株式会社三條機械製作所入社(平成7年3月まで)

平成7年4月 スペック株式会社入社(平成13年2月まで)

平成16年3月 長岡技術科学大学大学院工学研究科情報・  
制御工学専攻博士後期課程 修了(博士(工学))

平成16年9月 長岡技術科学大学客員助教授(平成17年3月まで)

平成17年4月 長岡大学産業経営学部専任講師

平成25年4月 長岡大学経済経営学部教授(現在に至る)

平成27年4月 長岡大学経済経営学部長(現在に至る)

#### 専門分野

(1)教育支援システムの開発 (2)板紙類の打抜き加工特性  
(3)人間力育成を考慮した大学情報システムのフレームワーク  
の研究

#### 所属学会

教育システム情報学会、日本機械学会、日本塑性加工学会

### ごあいさつ

このたび、長岡大学第4代学長に就任いたしました村山光博です。

長岡大学がこれまで目標としてきた「地域のための大学」を、これからもしっかりと受け継ぎ、地域志向の教育、研究、社会貢献をさらに推進することで、「地域の役に立ち、頼りになる大学」をめざします。どうぞよろしくお願いいたします。

私は新潟市で生まれ育ち、そこで中学生まで過ごしました。その後、長岡工業高等専門学校から長岡技術科学大学への進学を経て、大学院修了までの9年間を長岡市で暮らしました。就職してからは県央地区に居りましたが、本学へ赴任して3年後からは再び長岡市に住所を置き、今ではこの長岡市が計17年間と人生で最も長く住んでいる地域となりました。

私にとっては第二のふるさとと言っても良いでしょう。

大学生の時には、仲間たちと一緒に好み焼き同好会というサークルを立ち上げて活動していました。単にお好み焼きを食べるだけでなく、いろいろなサークル内イベントを企画・実施することで、学内外の人との交流を楽しむことができました。ちなみに、最近あまり機会がありませんが、その時の経験を生かしておいしいお好み焼きを作るには自信があります。

私の趣味は広く浅くという感じですが、比較的息の長い趣味に魚釣りがあります。と言っても、今はそれほど本格的なものではなく、天気の良い春先や暑さの和らいだ秋口などに子どもを連れてぶらりと海岸に出かける程度でしょうか。たとえ一匹も釣れなくとも、海を見ながらただぼっとしているだけでも十分リフレッシュできます。また最近では、オートバイに乗ることも趣味の一つで、田舎道をゆっくりと周りの景色を楽しみながら走ると、思わず時間を忘れてしまいます。

最後になりますが、長岡大学の学生の皆さんに伝えておきたいことは、せっかくこの長岡大学で学ぶ機会を得たわけですので、この長岡の歴史や文化、産業などいろいろと見てほしいと思います。長岡には良いものがたくさんあります。そう言ったものを一つでも見つけて、長岡を好きになってくれることを期待しています。



平成26年度より「長岡大学COC通信」として「長岡大学通信」と一緒に発行しています。

長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成25~29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

## 村山新学長インタビュー

### 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)とは

平成25年度から実施された文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」、いわゆる大学COC事業とは、大学が自治体等と連携して、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めることで、地域コミュニティの中核的存在となり、地域コミュニティの再生・活性化の核となる大学へと、自ら改革することを支援する事業です。それにより、激化するグローバル競争や少子高齢化等の厳しい環境変化に対応した地域社会の活力の維持・拡大を目指しています。

長岡大学は、平成25年度にCOC事業として「長岡地域<創造人材>養成プログラム」を応募し、新潟県内の大学で唯一採択されました。

### 長岡大学COC事業のめざすもの

本学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」は平成25年度から平成29年度までの5年間の事業ですが、長岡地域の産業活性化や地域コミュニティ活性化等に向き合って課題解決や価値創造を担う専門的能力を身につけた学生や社会人、いわゆる「創造人材」の養成を通して、様々な地域課題に応えようと考えています。

教育面では、地域の人材ニーズに応える諸専門的能力や社会人基礎力等の養成、学生起業人材の養成等を行っています。専門能力は、情報や専門分野の上級資格の取得を増やし(卒業生60%取得)、地域志向科目(企業講師授業や地域活性化プログラム)で実践的な授業・取組を行い、社会人基礎力(コンピテンシー)を養成しています。

研究面では、人口減少問題や創造人材育成等の主な地域課題の研究に加えて地域志向教育研究も積極的に取り組んでいます。年1回調査研究成果を発表しシンポジウムを開催し地域課題解決を目指しています。教員個人による地域志向教育研究も行っています。

また、社会貢献面では、地域活性化の推進や市民・企業人向け講座の開催、地域起業人材の養成等に取り組んでいます。「十分杯」プロジェクトなど地域活性化プログラムが地域活性化にも貢献しております。講座関係も地域の人々の学習ニーズに応える公開講座も開講しています。起業も推進しています。

これらの取組を通して、「地域で役に立ち、頼りになる大学」へと本学を改革すること目指しています。

### 新入生に望むこと(COC活用して)

COC事業では、学生に地域を知ってもらう機会を少しでも多く提供して行きたいと考えています。企業の経営幹部を授業に招いて講義を行ってもらったり、逆に企業に出向いて工場見学を行ったり、あるいは地域の方々と一緒に地域の課題について調査研究に取り組んだり、大学の中だけでなく実際に地域の現場に出かけて行くことも多いと思います。



地域に関する知識を得るだけでなく、地域を自分の目で見て、音を聞き、風を肌で感じてほしいのです。長岡大学で4年間を過ごした学生の皆さんが、地域の中で五感を使って体得したものを生かし、将来皆さんが暮らすそれぞれの地域で活躍してくれることを期待しています。

### 平成28年度からCOC+と地方創生へ

文部科学省は、これまでのCOC事業をさらに発展させて、平成27年度から「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」、いわゆるCOC+(プラス)事業を実施しています。このCOC+事業は、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を行う大学の取組を支援するものです。新潟県では新潟大学を中心とする新潟市周辺の大学が参加して応募した『「ひと・まち・しごと」創生を循環させるNIIGATA人材の育成と定着』事業が採択されました。長岡大学も文部科学省の指示を受け、COC事業を継続しつつ平成28年度からCOC+事業に加わり地方創生を推進することになりました。平成28年度はまず、インターンシップ・マッチングフェアを5月に開催します。

また、長岡市の進める地方創生事業にも、積極的に連携して、参加・推進します。平成27年度は「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト」(略称:ながおかアイ・コン)を推進しました。平成28年度も長岡市に連携して、進めます。

長岡大学は、地(知)の拠点大学づくりと地方創生への貢献をめざして、進みます。

### 学生による地域活性化プログラム 平成27年度 成果発表会



村山ゼミ発表 企業の情報発信とホームページの役割